

子ども気象学士 20人認定

沖縄気象台で5日間学ぶ



子ども気象学士の認定証書を手にする参加者ら 8月21日、那覇市樋川の沖縄気象台

夏休みを利用した「子ども気象学士教室」(主催・日本気象学会沖縄支部、共催・FMとよみ)が8月11～15日、

那覇市樋川の沖縄気象台などで開かれ、県内の小学校5、6年生を中心に20人が受講。今回初めて創設した同気象学士の1～3級に認定された。

児童らは5日間の期間中に気象台の職員らから台風など沖縄に特有な災害や天気図、ハザードマップの活用方法などを学んだ。恩納村の宇宙通信所に向いて人工衛星の仕事を見学するなど、気象に関連する知識を深めた。

「気象学士」の試験は天気図の見方などの基礎のほか、

天気や気候に関連する沖縄の言葉も盛り込まれた。90点以上が1級に認定される中3人が100点を獲得。1級に合格した沖縄カトリック小3年の辺上天俊君(9)は「季節ごとの雲の形、天気図の見方が分かって良かった」と話した。

沖縄気象台気象防災調査官の裁吉信さんは「講義では子どもたちの質問が多く、関心の高さを感じた。受講生から将来、気象予報士を目指す人が出てくれたらうれしい」と期待した。